

一の池

敬慎院の裏手には、"一の池"と呼ばれる池があります。伝説によると、七面山の周囲には七つの池があるとされています。敬慎院のシンボルは、一つの丸を中心とした六つの円の集合体です。このシンボルの意味についてはいくつかの説がありますが、円が七面山の七つの池を表しているという説があります。

第一の池と第二の池である一の池と二の池は、寺院から徒歩で行くことができます。残りの5つの池の正確な位置は不明です。7つ目の池の場所を特定できた人は、その池を見て目が見えなくなるという噂さえあります。

一の池の水はエメラルドグリーンの薄い色をしていますが、かつてはとても澄んでいたと言われています。地球温暖化の影響で池の生態系が変化してしまいました。それでも、池の水が動かないときは、空や周囲の木々を映し出す鏡のような役割を果たしています。

水は自然や野生生物にとって欠かせないものであり、日蓮宗の神話には欠かせないシンボルとなっています。七面山のご祭神は七面大明神（しちめんだいみょうじん）。七面山の龍神は、かつて一の池や現在の敬慎院のある一帯に住んでいたとされています。ある日には、水面下で龍の女神が蠢いているかのような波紋を見ることができます。